

紋飾的世界觀—北海道愛努族與 新社噶瑪蘭族紋飾聯展 報導

「文様の世界観—北海道のアイヌ民族と新社クヴァランの文様共同展示」レポート
A Report on “World View Through Patterns:
the Joint Exhibition of Patterns between Ainu People in
Hokkaido and Kealan People in Sinshe”

文・圖 | 陳由璋 (政治大學民族系博士生)
翻譯 | 石村明子 (日中文翻譯者)

文責・図 | 陳由璋 (政治大學民族學系博士課程)
訳者 | 石村明子 (日中通訳訳者)



向心 緩慢旋轉的螺旋紋 (morew)，蜿蜒的盡頭是那凝視觀者的菱眼 (sik)，如同眼裡散發出銳利的眼神般，從菱眼 (sik) 釋放出荊棘般的刺紋 (ayus)。在紋樣構成的空間之中，施加上鱗紋 (ramram-noka) 的細膩排列紋像，醞釀出不讓人看透內部般的神秘感受。這些紋樣以上下與左右對稱的形式，排列出目不暇給、眼花撩亂的複雜構圖，這就是愛努紋樣所展現出來的世界。愛努族傳統抽象的幾何之美，讓觀者沉浸於想像的空間。我們對照西洋藝術史來看，愛努的抽象紋樣就如康丁斯基的熱抽象一般具有自然曲線的感性表現，也具有蒙德里安的冷抽

今年在台北華山1914文化创意產業園區舉辦「紋飾的世界觀—北海道愛努族與新社噶瑪蘭族紋飾聯展」。

今年台北的華山1914文化创意產業園區で開催した「文様の世界観—北海道のアイヌ民族と新社クヴァランの文様共同展示」。

中心 に向かって静かに回る渦巻文様 (モレウ)、その曲がった先端はじっと見つめている観察者の菱形の目 (シッ)、そして鋭い眼差しのように菱形の目 (シッ) から放たれているのが棘の文様 (アイウシ)。その組み合わせさせた模様の中に鱗の文様 (ラムラムノカ) が細かく列をなし、内側に見通すことのできない神秘的な感覚を醸し出している。上下左右が対象で、見る人を飽きさせることがなく、心を乱す美しさを持つ模様によるこの構図は、アイヌ文様が表現する世界である。抽象的で幾何学的なアイヌの伝統美は見る者を想像の空間に浸らせる。西洋芸術史と対比させてみると、アイヌの抽象的文様はカンディンス

象派所強調規律與原則之理性秩序。愛努紋樣可謂是融合了兩種抽線藝，巧妙地展現出兩者的美感。

延續去年的驚艷

如此驚艷的傳統民族藝術，台灣的民眾很有眼福，不用千里迢迢到北海道二風谷，今年又能在台北華山1914文化創意產業園區親眼目睹愛努傳統紋樣之美。去年3月17日至19日，原民會曾邀日本北海道二風谷民藝組合，於台北華山1914文化創意產業園區，共同主辦「日本愛努民族工藝特展」。今年二風谷民藝組合代表理事貝澤守（KAIZAWA Mamoru）再度領軍，帶來族人的作品重回舊地，讓台灣民眾大飽眼福。有別於上次的愛努民族個展形式，本次原民會安排以「紋飾的世界觀—北海道愛努族與新社噶瑪蘭族紋飾聯展」主題，透過聯展的方式，讓台日原住民有更進一步的交流。為彌補上次展期就短的遺憾，本次展期一樣從3月17日起，一直展到4月30日止，展示時間將超過一個月，可讓有興趣的南部朋友北上參觀。

台日原民業者交流暨茶會

在「紋飾的世界觀—北海道愛努族與新社噶瑪蘭族紋飾聯展」正式開展前日3月16日下午，原民會於華國大飯店舉辦台日原住民族業者交流暨紋飾聯展開幕茶會。現場除了展示二風谷愛努族的作品外，台灣原住民族業者也帶來自家的文創商品與二風谷民



去年與今年來台展示的二風谷Ita（二風谷木盤）與二風谷Attus（二風谷樹皮衣），是北海道地區唯一被日本經濟產業省指定為傳統性工藝品的兩項工藝品。

去年及び今年、台湾で展示された二風谷Itaと二風谷アットゥシについて、北海道で唯一、経済産業省による伝統的工芸品の指定を受けていると述べた。

キーの「熱い抽象」のような自然の曲線による感性的表現とモンドリアンの「冷たい抽象」が強調する規律性的で原則的な理性と秩序を併せ持っている。アイヌ文様は線の抽象芸術を融合させ、両者の美を巧みに表現していると言えるだろう。

昨年に続く圧巻の美

遠路はるばる北海道の二風谷に行かずとも、台湾の人々は今年も台北の華山1914文化創意産業園區で、この圧巻の美を誇る伝統的民族芸術を目にする機会に恵まれた。原住民族委員会は去年の3月17日-19日、北海道の二風谷民芸組合を招待し、台北の華山1914文化創意産業園區で「アイヌ民族工芸展」を共同で開催した。今年も二風谷民芸組合代表理事の貝澤守（かいざわ・まもる）氏率いるアイヌ民族のメンバーが台北に戻り、台湾の人々も作品を鑑賞する機会に恵まれた。また、前回の単独展示とは異なり、今回は原住民族委員会の取り計らいで「文様の世界観—北海道のアイヌ民族と新社クヴァランの文様共同展示」というテーマで共同展示を行い、日台



本次原民會安排以「紋飾の世界観—北海道愛努族與新社噶瑪蘭族紋飾聯展」主題，透過聯展的方式，讓台日原住民有更進一步的交流。

今回は原住民族委員会の取り計らいで「文様の世界観—北海道のアイヌ民族と新社クヴァランの文様共同展示」というテーマで共同展示を行い、日台の先住民族間のさらなる交流を促進した。

藝組合交流。這次會議日方除了二風谷民藝組合愛努族的理事長暨工藝名人貝澤守、編織家貝澤美雪、工藝家藤谷誠一等人參加外，北海道大學愛努・先住民研究中心中心長常本照樹、佐佐木利和教授、落合研一副教授、山崎幸治副教授等人也到場並協助本次展覽。

本次交流暨茶會首先由原民會主委夷將・拔路兒 (Icyang Parod) 的致詞下開幕。夷將・拔路兒主委於百忙之中撥冗出席，在致詞中表示原民會對台日原住民之間交流的重視與歡迎



現場展示北海道二風谷民藝組合與新社噶瑪蘭族香蕉絲工坊的作品。

現場では展示された二風谷組合とクヴァラン族香蕉絲工坊が作った作品たち。

の先住民族間のさらなる交流を促進した。残念ながら展示期間が短かった前回とは違い、今回は前回と同じ3月17日開始で、4月30日までの展示となった。期間が1か月以上あるため、台湾南部の住民も台北に来て展示を見ることができるようになっている。

日台先住民族交流とレセプション

「文様の世界観—北海道のアイヌ民族と新社クヴァランの文様共同展示」開始前日の3月16日の午後、インペリアルホテルで原住民族委員会による日台先住民族業者の交流ならびに文様共同展示の開幕レセプションが開催された。会場には二風谷のアイヌ民族による作品のほか、台湾原住民族の業者も自社のクリエイティブ商品を展示し、二風谷民芸組合との交流を行った。日本側の参加者は、二風谷民芸組合の代表理事で工芸家の貝澤守氏、織物工芸家の貝澤美雪氏、工芸家の藤谷誠氏のほか、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの常本照樹センター長、佐々木利和教授、落合研一准教授、山崎幸治准教授などが今回の展示協力のため参加した。

今回の交流およびレセプションではまず原住民族委員会のイチャン・パルー主任委員が開幕挨拶を行った。多忙な中での参加となったイチャン・パルー主任委員は挨拶で、原住民族委員会は日台の先住民族交流

二風谷再次遠道而來，同時也表示期待台日原住民在工藝文化上的相互學習，有期待透過這次展覽增加愛努工藝在台灣的能見度。緊接著是二風谷民藝組合理事長貝澤守的致詞，貝澤守理事長先對之前花蓮地震表示慰問之意，感謝上次與本次原民會的邀請與台灣方面的熱烈歡迎外，更表示台灣原住民的工藝讓愛努族受到文化傳承與商品策略的深刻啟發。

愛努品牌的課題與挑戰

關於商品策略部分，北海道大學愛努・先住民研究中心的山崎幸治副教授則特別說明目前推動「愛努品牌」的現況與課題。山崎幸治副教授首先說明去年與今年來台展示的二風谷Ita（二風谷木盤）與二風谷Attus（二風谷樹皮衣），是北海道地區唯一被日本經濟產業省指定為傳統性工藝品的兩項工藝品。傳統性工藝品是指依據傳統工藝材料與技術並符合當代產業與環境等需求並加以改良，跟傳統工藝品有所區隔，具有新舊融合的性質。

然而目前愛努工藝面臨到銷售量減少、市場萎縮、後繼者不足的課題。另一方面在日本政府2009年的懇談會報告書中，提到今後要加強推動愛努族的傳統性工藝品，例如加強販賣通路、觀光資源化或是國內外的宣傳等，以圖應對上述課題，其中一個方式就是打造「愛努品牌」。山崎幸治副教授表示「愛努品牌」的推動體制是以傘狀結構方式構思，雖然目前

重視しており、遠路をいとわず再度二風谷から来たメンバーを歓迎するとともに、工芸文化において日台の先住民族が互いに学び合い、今回の展示を通じて台湾におけるアイヌ民族工芸の知名度が向上することを期待すると述べた。続いて二風谷民芸組合の貝澤守代表理事が挨拶で、花蓮の地震に対する見舞いの意や、原民会による前回および今回の招待や台湾側の熱烈的な歓迎を受けたことに対する感謝のほか、台湾原住民の工芸によりアイヌ民族も文化伝承や商品戦略について深く感銘を受けたことについて述べた。

アイヌブランドの課題と挑戦

商品戦略については、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの山崎幸治准教授により現在推進している「アイヌブランド」における現状と課題についての報告が行われた。山崎幸治准教授はまず、去年及び今年、台湾で展示された二風谷Itaと二風谷アットウシについて、北海道で唯一、経済産業省による伝統的工芸品の指定を受けていると述べた。また、伝統的工芸品は伝統工芸の材料と技術によって現代の産業や環境などの必要に合わせて改良したものであり、伝統工芸品と違う意味合いがあるため両者は区別するべきであり、伝統的工芸品は新旧を融合した性質を持つと言及した。

現在アイヌの民族工芸は販売数減少、市場の縮小、後継者不足などの課題を抱えている。また日本政府は2009年有識者懇談会の報告書の中で、販路拡大や観光資源化、国内外向けの宣伝など、アイヌの伝統的工芸品の推進強化について言及している。これらの課題に対して打ち出した方法の1つが「アイヌブランド」である。山崎准教授によると、「アイヌブランド」の推進体制は傘状構造の構想であり、現在計画中にはあるが、傘の先端部分にあたるものが「アイヌブランド」の理論と理念であり、傘の下には各種工芸、商品デザイン、グラフィックデザイン、映像や音楽、口承

還在規畫之中，但是傘頂是「愛努品牌」的理論與理念，傘下則包含各類工藝、商品設計、視覺設計、影視音樂、口傳文藝等。是一種整體規動與推動的概念。

周末華山展場現場教學體驗

這次展覽與前次最大的差別是17、18日週末兩日舉辦教學體驗活動。二風谷民藝組合愛努族理事長貝澤守、編織家貝澤美雪、工藝家藤谷誠兩日都駐點在「太平洋的風」的展覽區，帶著台灣民眾體現製作愛努族的工藝。這兩次體驗活動都有愛努紋樣的解說、愛努口簧琴ムックリ（mukkur）的教學體驗以及愛努服裝Attus體驗，週六活動是體驗愛努族的木雕雕刻，製作愛努紋樣的杯墊，另外還有小型織布機體驗與編織指導。週日活動則是體驗編制自己的手環。現場體現民眾從樹皮成拈線，再將自己做線編成更粗的線繩，透過愛努民族的植物利用與編織的民族智慧，讓線繩成為螺旋狀的手環。現場體驗民眾從零開始學習製作，也讓愛努的傳統文化編織刻劃到台灣民眾對於愛努的情感之中。◆



本次展覽於週末舉辦兩日的教學體驗活動。

今回の展示中、週末二日間で開催された教学体験活動。

文芸などが含まれる、とのことである。つまりこれは全体的な計画と推進の概念なのである。

展示会場の華山での週末の体験学習活動

今回の展示で前回と大きく違う点は17日、18日の週末の両日に体験学習活動が行われたことである。アイヌ民族で二風谷民芸組合代表理事の貝澤守氏、織物工芸家の貝澤美雪氏、工芸家の藤谷誠氏は、両日とも「太平洋の風」の展示エリアで台湾の人々にアイヌ工芸制作を教えた。2回の体験学習ではアイヌ文様の解説、ムックリ演奏体験、アイヌの伝統服着用体験のほか、土曜日はアイヌ文様の彫刻の入ったコースター制作と小型織機によるアットゥシ織りの体験を行い、日曜日はブレスレット制作を行った。体験者はオヒョウの皮で糸を撚ってから太く編み、アイヌの植物利用や民族の智慧を通じて、螺旋状のブレスレットを制作した。台湾の体験者にとっては初めての経験であったが、アイヌの伝統文化を気持ちの中に織り込んで刻んだことだろう。◆

手機掃描QR CODE 填寫「讀者回函」

歡迎您上網提供對本刊的具體建議，以做為未來編輯參考。

感謝您閱讀本期《原教界》。本刊是台灣原住民族教育的唯一雜誌，內容涵蓋原住民族教育之最新情報、政策評論、校園報導、會議訊息、新書評介等，為原住民族教育工作者及研究者提供新知識與新趨勢，已發行13年共79期，並已全文上網（查「政大・原住民族研究中心」或「ALCD」）。

